

## 育児不安に関する臨床的研究 II — 育児不安の本態としての育児困難感について —

愛育相談所 川井 尚・庄司 順一  
千賀 悠子・加藤 博仁  
保健指導部 中野 恵美子  
囑託研究員 恒次 欽也 (愛知教育大学)

要約：育児不安に関するプロジェクト研究として、これまで2論文を報告しその本態は育児困難感にあるのではないかとの仮説を提起した。本報告ではこの育児困難感を視野に入れてより育児不安の本態に迫り、その臨床的対応への手掛かりを得るための研究をすすめた。

その得られた知見を要約すると次のようである。1) 因子分析により、3歳未満児、3歳以上児の母親共に、同一項目から成る1因子のみが抽出された。この因子を構成する項目は「子どもをうまく育てていると思えない」「子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある」「子どものことが煩わしくて、イライラする」「叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」の4項目であった。これらの項目はほぼ前2論文において「育児困難感」因子を構成するものと一致しており、従って、本因子は育児困難感の中核を示すものと考えられ、「中核的育児困難感」因子と命名し、育児不安の本態であることを示唆した。なお、この因子の心性は育児への困惑と子どもへのネガティブな心的態度、感情から成るものと考えられた。2) 本因子の合計点の高低群、及び4項目全てにチェックされた群、されない群と子どもの心身状態、夫婦関係、相談相手等の調査項目とのクロス集計の結果、「中核的育児困難感」因子と有意な関連をもつ要因を見だし、保健指導、育児相談等臨床的対応への手掛かりを示した。今後これまでの知見を生かし、育児困難感の評定尺度の作成、及びその臨床的適用へと研究をすすめたい。

見出し語：育児不安、育児困難感、保健指導、育児相談

### A Clinical Study on Maternal Anxiety Related to Child-Rearing("Ikuji-Fuan")

Hisashi KAWAI, Junichi Shoji, Yuko CHIGA  
Hirohito KATO, Emiko NAKANO, and Kinya TSUNETSUGU

It is hypothesized from our previous studies that the nature of "Ikuji-Fuan" (maternal anxiety related to child-rearing) are in "feelings of difficulty with child-rearing." In this study, authors examined this hypothesis through re-analysis of the data, and discuss the way to provide appropriate help or treatment for mothers. Factor-analysis was done on the selected 10 items that were mother feelings related child-rearing out of total items. Only one factor consisted of 4 items was extracted. As these items were all in the previous factor "feelings of difficulty with child-rearing," the factor obtained was named "the core feeling of difficulty with child-rearing." It was suggested that this factor was the nature of "Ikuji-Fuan." Cross-checks between factor score and other items such as children's health status, marital status, and so on, showed significant relationship.

Key words: Ikuji-Fuan, Child-rearing anxiety, feelings of difficulty with child-rearing,  
Guidance for child-rearing

## I 研究目的

小児保健の領域において、育児援助の必要性、特に育児不安への対応が緊急の課題であるといわれてきた。そこで育児不安研究のプロジェクトを組み、育児不安の概念の明確化とこれに関連する要因を見いだすことにより育児相談等臨床に役立てるべく1994年<sup>1)</sup>、1995年<sup>2)</sup>論文において報告した。その結果を要約すると次のようである。即ち、1994年論文では3歳未満児をもつ母親を対象に、育児不安に関わる29項目について因子分析を行った。その結果2因子を抽出し、第1因子を「不安、抑うつ感」第2因子は「育児困難感」因子と命名した。特に育児困難感は子どもの状態と有意な関係が少ないにも関わらず、育児上の心配をもつところから育児不安の本態に近いものと考えられた。次いで、子どもの年齢要因を考慮し1995年論文では3歳以上の幼児をもつ母親に同様の調査、分析を行った。その結果、3つの因子が抽出され、「育児困難感」が第1因子となり、第2因子に「不安、抑うつ感」と3歳未満児とで逆転を示し、第3因子に「非社会性」因子が加わった。特記すべきは、「育児困難感」因子が第1位となり、幼児期ではより育児に困難感を有していることである。

そこで、本研究では育児不安に関連すると思われる29項目の中から、子どもに関わる10の項目を選び(表1)、因子分析を行い、その結果に従って調査項目とのクロス集計を行い、乳幼児をもつ母親の育児不安の本態と並びにその心性を明らかにし、それに基づく臨床的対応の手

掛かりについて検討をすすめ、ある程度の知見を得たのでここに報告する。

## II 方法

## 1. アンケートの作成

1994、1995年論文において詳細に述べたので、簡単にふれるにとどめる。育児不安に関する項目群として29の項目を作成した。それ以外に、1. 現在、過去の育児不安、手助けの必要さとその時期、2. 妊娠期から乳児期の心身の状態、3. 子どもの現在のようす、4. 居住地域環境、5. 育児の情報源、6. 相談相手、7. 父親との関係などについてあわせてたずねている。3歳未満群用と3歳以上群用と2種類作成したが質問項目はほぼ同じ内容である。

## 2. アンケートの実施

アンケートは幼稚園、保育園を通して母親に配布し、おおよそ1週間の間隔をおいて回収した。

## 3. アンケートの対象

幼稚園、保育園に通園している児をもつ母親を対象とした。対象は0歳から3歳未満群が882名、3歳以上7歳未満群が1242名である。

## 4. 結果の整理方法

因子分析は主因子法(バリマックス回転)で、固有値が1.0以上の因子を有効なものとした。因子分析は各年齢群ごとに実施した。

表1 因子分析の分析対象とした育児不安項目&lt;子どもに関する項目&gt;

項	目
3R	子どもといっしょにいると楽しい
4	子どものことがわずらわしくてイライラする
5	子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある
6R	子どもをうまく育てていると思う
7	私一人で子どもを育てているのだと思う
8	子どもを育てるため、我慢ばかりしていると思う
9	子どもを育てることが負担に感じられる
14	叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある
15	特に理由はないが、子どものことがとても気になる
16	何かというと子どもに目がいてしまい、気疲れする

注：Rは逆転項目、育児不安項目29項目中の10項目

## Ⅲ 結 果

## 1. 因子分析による検討

表2に示すように3歳未満児と3歳以上7歳未満児の母親のいずれも第1因子のみが抽出され、しかも因子を構成する項目も同一であった。即ち、項目4「子どものことがわずらわしくて、イライラする」、項目5「子どものことで、どうしてもよいかわからなくなることがある」、項目6「子どもをうまく育てていると思えない」、項目14「叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」の4つの項目である。そしてこれらの項目のうち3項目は1994年論文（3歳未満群）において、1995論文（3歳以上群）では全ての項目が因子分析において育児困難感因子と命名した因子を構成しているものと一致した。従って、この因子は育児困難感を成り立たせている心的状態の中核を示し、「中核的育児困難感」因子と命名しようとする。

## 2. 中核的育児困難感因子合計点の高低群と各項目との差の検定

因子分析の結果抽出された第1因子を構成する4項目の素点の合計点を求め（1項目1から2点で合計は4点から8点）、25パーセント未満を育児困難感高群、

75パーセント以上を低群と定義した。この高低2群と各項目とのクロス集計を行い、 $\chi^2$ 検定した結果を以下に述べる。

## (1) 育児不安項目

表3に示すように、3歳未満群、3歳以上群とも一部を除いてほとんど育児不安項目と育児困難感の高低の間に有意な関連が認められた。即ち、子どもに関わる問題から母親自身の広範囲にわたる精神的問題と関連をもち、中核的育児困難感の高いものはこれらの項目の示す心的状態にあると考えられる。

## (2) 現在、過去の育児不安・手助けの必要さとの関係(表4)

当然のことといえるが、育児困難感の低い群は現在、過去とも育児に不安をもつことが有意差をもって少ないといえる。

不安の高い時期との関連をみると、3歳以上群では1歳半前後まで有意な関連がみられないこと、また両年齢群とも2歳前後に育児困難感の高低と有意な関連を示した。手助けの必要さについて、育児困難感の高い群は両年齢群とも現在、以前とも手助けを有意に求めていることが示された。手助けのほしい時期をみると3歳未満群の方が妊娠中、退院直後、7から11ヶ月など育児困難感の高低と有意な関連を有している。ここでも両年齢群とも2歳前後に有意な関連が認められている。

表2 因子分析結果（主因子解，Varimax回転）

## 3歳児未満

第1因子（固有値 1.6626 寄与率 16.6%）

項 目	負荷量
6R 子どもをうまく育てていると思う	0.5914
5 子どものことで、どうしてもよいか分からない	0.5132
4 子どものことがわずらわしくてイライラする	0.4623
14 子どもを虐待してのではないかと思う	0.4262

注：固有値1.0000以上は第1因子のみ

## 3歳児以上

第1因子（固有値 1.8323 寄与率 18.3%）

項 目	負荷量
5 子どものことで、どうしてもよいか分からない	0.5631
6R 子どもをうまく育てていると思う	0.4915
14 子どもを虐待してのではないかと思う	0.4849
4 子どものことがわずらわしくてイライラする	0.3959

注：固有値1.0000以上は第1因子のみ

表3 第1因子合計点の高低2群と各項目とのクロス集計表 ( $\chi^2$ 値)

項 目	3歳児未満			3歳児以上		
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
子どもの年齢	10.201***			—		
0歳		30.5	43.3			
1歳		41.1	36.5			
2歳		28.4	20.2			
子どもの性別	—			4.988*		
男児					53.0	45.3
女児					47.0	54.7
学 歴	—			—		
1 何となく育児に自信がもてないように思う	132.833***	48.9	4.8	351.110***	71.2	10.1
2 育児についていろいろ心配なことがある	111.739***	70.3	26.0	225.411***	81.5	30.4
3R 子どもといっしょにいると楽しい	—			15.447***	89.8	96.3
7 私一人で子どもを育てているのだと思う	—			8.801**	8.3	3.7
8 子どもを育てるため、我慢ばかりしていると思う	29.500***	19.0	4.0	24.792***	13.2	4.1
9 子どもを育てることが負担に感じられる	39.607***	18.8	2.0	60.138***	18.7	3.1
10 自分のやりたいことができなくてあせる	58.895***	48.5	17.9	105.631***	39.5	10.3
11 母親として不適格と感じる	124.918***	44.8	3.2	269.937***	62.3	7.9
12 育児ノイローゼに共感できる	68.678***	74.6	40.6	77.282***	73.7	43.9
13 私の生きがいは育児とは別である	12.412**	62.5	47.8	10.077**	67.2	56.6
15 特に理由はないが、子どものことがとても気になる	4.773*	46.5	37.5	54.018***	55.5	30.9
16 肩がたいと子どもに目かいてしまい、気が済む	13.248**	27.4	14.7	103.077***	40.2	10.9
17R とても幸せな気分でも過ごしている	76.610***	64.0	94.8	107.022***	46.5	80.3
18 肩がたいと深い呼吸がおそわれることがよくある	44.859***	25.8	4.8	83.343***	30.4	7.1
19 気が滅入ることがよくある	85.665***	43.9	8.8	145.694***	51.2	13.6
20R 楽天的であまりくよくよと考えない方である	31.239***	57.6	79.6	51.413***	42.0	66.3
21 何事にも敏感に感じすぎてしまう方である	16.763***	35.6	20.0	32.893***	45.4	26.7
22 とても心配症で、あれこれ気に病むことが多い	33.283***	39.7	17.5	78.842***	53.3	24.1
23 人とつきあよりも、一人で肩かいている方が好きである	13.469**	27.7	14.9	16.759***	39.5	26.4
24R 人づき合いが好きな方である	23.019***	64.2	82.3	18.417***	51.5	65.9
25 不安や恐怖感におそわれることがよくある	37.346***	22.0	4.0	96.004***	27.2	4.1
26 いてはたつてもいられないほど落ちつかないことがよくある	29.091***	13.7	1.2	45.981***	16.9	3.5
27 イライラすることが多い	119.651***	61.3	16.0	190.485***	73.6	26.5
28 ひどく疲れやすい	48.790***	46.2	18.4	70.919***	50.0	22.7
29R からだの調子は	32.513***	75.1	93.2	51.114***	67.1	87.2

注：高低2群は第1因子4項目の合計点を求め、25パーセンタイル（3歳児未満は6.0、3歳児以上は5.0）

未満を高群、75パーセンタイル（3歳児未満は8.0、3歳児以上は7.0）以上を低群とした。

Rは逆転項目。値は $\chi^2$ 値。\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , - n.s.

項目4, 5, 6R, 14は第1因子を構成する項目なのでクロス集計からは外した。

—は分析対象外を意味する。

表4 第1因子の合計点(高低2群)と「現在,過去の育児不安・手助けの必要さ」との関係

項 目	3歳児未満			3歳児以上		
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
育児不安の時期など	54.920***			122.683***		
1 不安, 心配を感じたことはない		15.6	37.8		8.5	35.7
2 現在心配である		18.1	3.3		20.1	3.6
3 以前心配だった		66.3	58.9		71.3	60.7
→いつ頃でしたか(種別不明)						
妊娠中	—			—		
出産入院中	8.070**	3.0	8.3	—		
退院直後	—			—		
退院から1ヶ月	—			—		
1から3ヶ月	—			—		
4から6ヶ月	—			—		
7から11ヶ月	—			—		
1歳前後	12.210**	8.1	1.6	—		
1歳半前後	5.310*	4.5	1.2	—		
2歳前後	4.558*	2.7	0.4	6.788**	11.8	6.8
3歳前後				18.665***	18.8	8.9
4歳前後				—		
5歳前後				4.488*	3.5	1.4
6歳前後				—		
手助けの必要な時期など	34.988***			20.474***		
1 手助けをほしいと思ったことはない		5.0	16.0		8.2	17.8
2 現在		33.4	15.6		4.6	2.0
3 以前		61.5	68.4		87.2	80.2
→いつ頃でしたか(手助け回数)						
妊娠中	5.082*	5.7	2.0	—		
出産入院中	—			8.818**	5.6	1.9
退院直後	8.574**	11.4	20.2	—		
退院から1ヶ月	—			—		
1から3ヶ月	—			—		
4から6ヶ月	—			—		
7から11ヶ月	5.082*	5.7	2.0	—		
1歳前後	—			—		
1歳半前後	5.580*	3.9	0.8	—		
2歳前後	5.378*	2.1	0.0	14.345***	14.2	6.6
3歳前後				15.888***	9.4	3.1
4歳前後				—		
5歳前後				—		
6歳前後				—		

(3) 子どものようすとの関係 (表5)

現在の子どもの状態が満足か不満足かについて、両年齢群とも育児困難感の高低と有意な関連がみられた。そして育児困難感の高い群では子どもへの満足、やや満足と評価するものが低群より有意に低いといえる。子どもの性質との関連をみると、「泣き虫」「しつこい」「落ち着きがない」と育児困難感の高低に両年齢群とも有意差が認められた。「明るい」「元気」「内気」「神経質」といった性質は3歳以上群に有意な関連がある。

身体・病気の心配とは両群とも有意な関連をもち、熱、風邪、体重の増えなさが両年齢群ともに育児困難感の高低と有意な関連を認めた。

発達の心配について、「言葉が遅い」ことが両年齢群とも育児困難感の高低と有意な関連をもっている。癖について、全体からみると両年齢群とも有意差が認められ

るが、3歳以上群にのみ「タオルを離さない」「爪かみ」と有意な関連を示した。授乳、ミルクの心配、泣きについては両年齢群とも育児困難感の高低と有意な関連を示した。

疳が強いなど子どもの性質について検討すると、3歳以上群では「驚きやすい」を除き全ての項目に有意な関連が認められた。年齢に共通なものは「疳が強い」「こだわりが目立つ」の2項目である。

調査対象のきょうだいについての心配、悩みがあるかどうかと育児困難感の高低とは両年齢群ともに有意な関連を認めている。

離乳食の心配は3歳以上群のみが、排泄の心配では全体的な傾向として有意な関連がみられた。「眠りが浅い」「ひとりで寝ない」の項目は3歳未満群のみ育児困難感の高低と有意な関連を示した。

表5その1 第1因子の合計点(高低2群)と「子どものようす」との関係

項 目	3歳児未満		3歳児以上	
	$\chi^2$ 値	高群% 低群%	$\chi^2$ 値	高群% 低群%
現在の子どものようす	52.692***		111.404***	
1 満足している		30.0 59.2		7.3 31.5
2 まあまあ満足している		63.0 39.2		75.0 65.4
3 やや満足である		6.7 1.6		17.1 2.8
4 不満足である		0.3 0.0		0.5 0.4
子どもの性質				
明るい	—		34.695***	62.6 80.4
元気	—		9.051**	72.1 81.6
泣き虫	10.431**	34.9 22.6	28.595***	42.2 25.2
甘えん坊	—		—	
おしゃべり	—		—	
内気	—		4.992*	21.8 15.9
神経質	—		5.728*	24.2 17.6
のんびり	—		—	
がんこ	7.367**	46.1 34.9	—	
しつこい	14.610***	14.5 4.8	42.638***	30.6 12.8
落ち着きない	9.664**	17.2 8.3	20.963***	24.2 12.4
大人しすぎる	—		—	
よくわからない	—		—	
気づかいしすぎる	—		—	

表5その2 第1因子の合計点(高低2群)と「子どものようす」との関係

項目	3歳児未満			3歳児以上		
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
身体・病気の心配の有無	11.424**	62.0	47.8	17.629**	46.1	32.1
湿疹おむつかぶれ	—			8.799**	12.4	6.6
微熱	—			4.175*	0.8	0.0
熱を出しやすい	5.152*	8.1	3.6	4.164*	5.4	2.7
風邪ひきやすい	8.469**	23.5	13.9	3.981*	14.2	9.9
吐きやすい	—			5.098*	2.7	0.8
ひきつけ	—			—		
太りすぎ	3.887*	5.1	2.0	—		
体重増えない	5.841*	9.6	4.4	7.127**	8.9	4.5
発達の手配の有無	18.098***	15.7	4.5	21.993***	16.6	6.7
言葉が遅い	5.993*	4.8	1.2	5.079*	4.6	1.9
全体が遅い	5.310*	4.5	1.2	—		
行動・癖の手配の有無	7.202**	34.0	23.6	23.962***	42.2	26.5
指しゃぶり	—			—		
タオルを離さない	—			10.701**	5.1	1.4
抱き癖/爪かみ	—			7.446**	12.1	6.8
授乳・ミルクの手配の有無	9.144**	14.9	6.7	7.544**	30.8	22.5
飲みが悪い	—			—		
ほ乳瓶の乳首嫌い	—			—		
母乳不足	—			6.788**	11.8	6.8
泣きの有無	17.412***	24.1	10.5	46.089***	22.2	6.5
子どもの性質の手配の有無	27.213***	36.5	16.5	104.570***	54.0	20.6
疳が強い	21.602***	15.4	3.6	32.319***	13.2	3.1
大人しすぎる	—			12.294**	5.1	1.2
極端な人見知り	—			10.952**	4.0	0.8
ひどく怖がる	—			8.523**	6.5	1.2
表情が暗い	—			8.379**	1.6	0.0
落ち着きがない	—			34.874***	17.5	5.2
母親から離れない	—			9.634**	6.2	2.1
物音に驚きやすい	4.186**	8.1	4.0	—		
こだわりが目立つ	10.811**	6.0	0.8	29.311***	14.2	4.1
きょうだいに心配事があるか	10.009**	26.9	11.1	34.495***	30.3	12.9
離乳食の手配の有無	—			14.747**	27.0	16.3
排泄の手配の有無	3.920*	22.0	15.4	7.765**	28.9	20.7
下痢	—			—		
便秘	—			—		
おねしょ	—			—		
頻尿	—			—		
睡眠や夜泣きの心配の有無	14.510***	35.6	20.9	13.178**	16.1	8.1
夜泣き	—			—		
眠りが浅い	7.751**	12.3	5.6	—		
一人で寝ない	4.769*	15.7	9.5	—		

(4) 妊娠中から生後半年までの様子との関係 (表6)

妊娠を望んでいた、或いはまだ望んでいなかったといった妊娠に関する事と育児困難感の高低とは有意な関連を認めない。妊娠に気づいたときの情緒的反応について、年齢に共通な特徴は「嬉しい」が育児困難感の低い群に多く、「嬉しいが不安」が高い群に多く有意に関連している。また「不安」としたものも高群に多い。マタニティブルーズと関連すると思われる「出産後とても涙もろくなったり、淋しくなったりすることがある」ことは両年齢群ともに有意な関連をもっている。次の子がほしいか、ほしくないかには育児困難感は無関連を有しない。自分の子どもをもつ前に、乳児と関わりをもったかど

うかについて、3歳未満群のみ「世話や相手をしたことがない」と育児困難感の高低とに有意な関連を認めた。眠りについて、両年齢群とも「あまり眠らない方だった」ことが育児困難感の高い群に有意に多く認められた。泣きとの関連では、「よく泣き、しかもなだめにくかった」ことが両年齢群とも育児困難感高群に多く、有意な差を認めた。母乳やミルクの飲み具合は3歳未満群のみ育児困難感の高低と有意な関連を示した。

赤ちゃんのときの印象で、年齢に共通して育児困難感の高い群は「とても手が掛かり、大変だった」とする比率が有意に高かった。

表6 第1因子合計点(高低2群)と「妊娠中から生後半年までの様子」との関係

項目	3歳児未満		3歳児以上			
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
子どもを妊娠したのは	—			—		
妊娠に気づいたときどう感じたか	23.065***			13.717**		
1 とてもうれしかった		46.2	65.6		51.7	64.6
2 うれしいけど不安だった		44.6	30.8		43.2	30.8
3 とても不安だった		9.2	3.6		5.2	4.6
出産後涙もろく、淋しくなったか	35.048***	59.9	35.0	22.357***	54.9	37.9
次の子が欲しいか	—			—		
育児体験：抱いたことがある	—			—		
あやしたことがある	—			—		
ミルク等あげた	—			—		
おむつをかえた	—			—		
したことがない	5.438*	31.1	22.6	—		
眠り	6.250*			16.949**		
1 すごくよく眠った		29.6	39.0		27.7	31.3
2 ふつうだった		47.9	44.0		44.7	53.0
3 あまり眠らないほうだった		22.6	17.0		27.7	15.7
泣き	15.490**			15.910**		
1 あまり泣かなかった		17.4	24.0		12.8	15.2
2 ふつうだった		40.5	46.7		48.0	56.5
3 よく泣いたがなだめ易かった		23.8	21.5		19.1	17.8
4 よく泣きなだめにくかった		18.3	7.9		20.1	10.4
母乳等の飲み具合	6.920*			—		
1 よく飲んだ		54.9	59.3			
2 ふつうだった		32.1	34.4			
3 飲みがよくなかった		13.0	6.2			
赤ちゃんのときの印象は	11.647**			14.589**		
1 おとなしく手がかからなかった		30.7	42.1		26.5	33.4
2 ふつう		50.0	47.1		50.0	53.3
3 とても手がかかり、大変だった		19.3	10.8		23.5	13.3

## (5)父親の関係(表7)

両年齢群ともに夫と子どものことで話す機会のある、なしと育児困難感の高低とは有意な関連を有している。夫と気持ちに通じているかどうかと同様である。

夫が積極的に子どもの相手をするかどうか、積極的に家事に参加するかどうかについては、3歳以上群のみ育児困難感の高低と有意な関連を認めた。

子どもを産むことを誰が決心したかということは、育児困難感の高低と関連を有しない。

## (6)居住の関係(表8)

住んでいる地域に小さい子どもが多いか、少ないか、一戸建てか、マンション、アパートか、居住階は何階か、子どもの預け合いといったことと育児困難感の高低とは両年齢群とも関連は認められない。しかし隣や階下に気をつかうかどうかとは有意な関連が示された。

## (7)相談の関係(表9)

困ったとき、相談や話し合いのできる友人がいるかど

うかと育児困難感の高低とは有意差をもって両年齢群とも関連している。しかし、自分の母親に何でも話せるかどうかは3歳未満群のみ関連が認められている。夫、両親、きょうだいなど困ったときに相談できる相手について、3歳以上群の近所の人のみが育児困難感の高低と有意な関連を認めた。

## (8)相談システムの関係(表9)

育児をする上であるとよいと思うシステム、たとえば育児相談、保健婦の家庭訪問、育児教室、母と子の遊びの教室と育児困難感の高低とは有意な関連はない。同様にこれまで育児についての電話相談をしたことがあるかどうかとも関連を認めない。

## (9)育児の情報源の関係(表10)

育児雑誌、TV、親、友人など利用している育児の情報源と育児困難感の高低との関連はみられない。しかし、役立つ情報源として3歳以上群の自分の親、きょうだいのみが育児困難感の高低と有意な関連を示した。

表7 第1因子合計点(高低2群)と「父親」との関係

項目	3歳児未満		3歳児以上	
	$\chi^2$ 値	高群% 低群%	$\chi^2$ 値	高群% 低群%
夫と子どものことを話す	11.935**	17.8 7.8	15.332**	71.2 83.0
夫はあまゝが親が混入している	24.639***		27.655***	
1 はい		70.2 87.7		60.4 77.8
2 いいえ		4.3 1.6		6.8 3.5
3 どちらともいえない		25.5 10.7		32.8 18.6
夫は積極的に子供の相手をするか	—		13.400**	
1 積極的である				26.0 36.8
2 まあまあ積極的である				46.7 44.5
3 あまり積極的でない				21.7 14.3
4 消極的である				5.6 4.4
夫は積極的に家事に参加するか	—		14.897**	
1 積極的である				10.2 14.1
2 まあまあ積極的である				31.8 41.3
3 あまり積極的でない				30.2 25.7
4 消極的である				27.8 18.9
子どもを産む決心をしたのは誰か	—		—	

表8 第1因子合計点(高低2群)と「居住」との関係

項目	3歳児未満		3歳児以上	
	$\chi^2$ 値	高群% 低群%	$\chi^2$ 値	高群% 低群%
住居地域に小さい子の有無	—		—	
住居	—		—	
居住階	—		—	
隣家への気づかい	10.879**	51.1 35.5	7.183**	68.2 55.0
身近な人たちと子どもの預けあい	—		—	

表9 第1因子合計点(高低2群)と「相談、相談システム」との関係

項 目	3歳児未満			3歳児以上		
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
相談できる友人がいるか	4.739*	90.3	95.1	5.972*	88.8	93.7
自分の母親に何でも話せるか	9.264**	79.8	89.3	—		
相談相手は						
1 夫	—			—		
2 両親	—			—		
3 自分のきょうだい	—			—		
4 親戚	—			—		
5 友人・知人	—			—		
6 保育園の先生	—			—		
7 医師	—			—		
8 保健所・児相等	—			—		
9 近所の人	—			7.783**	16.7	24.4
10 心理カウンセラー	—			—		
相談システム						
1 育児相談	—			—		
2 保健婦訪問	—			—		
3 育児教室	—			—		
4 母子の遊び教室	—			—		

表10 第1因子合計点(高低2群)と「育児の情報源」との関係

項 目	3歳児未満			3歳児以上		
	$\chi^2$ 値	高群%	低群%	$\chi^2$ 値	高群%	低群%
情報源						
1 育児雑誌	—			—		
2 育児書	—			—		
3 TV・ラジオ番組	—			—		
4 自分の親など	—			—		
5 近所の友人など	—			—		
6 保健所等	—			—		
7 医院・病院	—			—		
活用源						
1 育児雑誌	—			—		
2 育児書	—			—		
3 TV・ラジオ番組	—			—		
4 自分の親など	—			4.039*	47.0	53.9
5 近所の友人など	—			—		
6 保健所等	—			—		
7 医院・病院	—			—		
電話相談の有無	—			—		

### 3. 第1因子4項目にチェックされた群とチェックのない群の検討

中核的育児困難感に関する要因をより明確に見いだすために、次のような処理を行った。4項目全てにネガティブな選択肢をチェックした者から（以下中核群）、すべてにポジティブな選択肢をチェックした者（非中核群）までの間には4点から8点（各項目1から2点で4項目あるため）が与えられる。その結果得点から5群に分かれるがこの5群と各項目とのクロス集計を行い、 $\chi^2$ 検定を行った。そして、有意となったものの中核群と非中核群の間に極端な比率の差を認めた結果だけを取り上げ、下記に述べる。

#### (1) 育児不安項目

育児不安項目全てに有意差が認められた。ここではとくにその比率に顕著な差のあるものを示すことにする。「育児に自信がもてない」は中核群では3歳未満70.0%、3歳以上86.8%に対し非中核群では4.8%と4.5%である。そして、「育児が負担に感じられる」のは42.0%、30.9%に対し2.0%、0.4%を示した。特に注目されるのは「母親として不適確と感じる」比率が中核群81.6%、79.3%に対し非中核群3.2%、2.9%であることである。これらは母親としての自己評価に関わるものであるが、母親自身の精神的問題の項目にも顕著な比率の差がみられる。即ち、「幸せな気分でも過ごしていない」、「淋しい気持ちにおそわれる」、「気が滅入る」、「不安や恐怖感におそわれる」、「いてもたってもいられないほど落ち着かない」、「イライラする」、「からだの不調」が主なものである。

#### (2) 現在、過去、の育児上の心配との関係

育児上の心配した時期について、中核群と非中核群の顕著な差は現在の心配の比率の差である。中核群3歳未満では20.4%に3.3%、3歳以上は23.7%に対し1.2%である。

#### (3) 子どもの様子との関係

母親の子どもに対する全体的な状態の評価、満足感について中核群は満足としているものが低く、3歳未満群の中核群22.4%、非中核群59.2%、3歳以上は4.4%にたいし39.3%である。換言すれば中核群では不満足とするものが有意に多く、3歳以上の非中核群ではやや不満足、或いは不満足とするものがみられない。

からだや病気の心配について、心配のないものの比率が中核群に有意に低い（3歳未満29.2%：52.2%、3歳以上51.5%：73.4%）。

発達について、3歳未満の中核群で心配のあるもの24.5%に対し非中核群では4.5%、3歳以上の中核群で心配

のあるものは20.7%、非中核群では4.5%である。

子どもの泣くことの心配は、3歳未満の中核群であるとするもの27.1%、非中核群10.5%であり、3歳以上では26.7%に対し2.4%と顕著に低い。

行動、癖の心配のあるものは、3歳未満群では有意差はなく、3歳以上で中核群46.7%非中核群24.1%である。

情緒の問題について、3歳未満で心配のあるものは中核群41.7%、非中核群16.5%、3歳以上では62.4%に対し15.5%と低率である。年齢に共通している顕著な心配は「かんがつよい」「極端な人見知り」「表情が暗い」「ひどくこわがる」であり、3歳以上では「落ち着きがない」「母親から離れない」「こだわりが目立つ」である。

きょうだいに心配なことがあるものも中核群に有意に多い。3歳未満中核群39.4%に非中核群11.1%、3歳以上では38.8%に対し9.9%を示している。

#### (4) 妊娠中から生後半年までの様子

妊娠に気づいたとき、3歳未満の中核群は非中核群よりも「うれしい」が低く（29.2%：65.6%）、「とても不安」が有意に多く認められ（10.4%：3.6%）、3歳以上では有意の差は認められない。

出産後の涙もろさ、淋しさ、3歳未満の中核群66.7%、非中核群35.0%、3歳以上では63.3%に対し32.6%であった。

あまり眠らない方であることは、3歳未満中核群35.4%、非中核群17.0%であり、3歳以上では30.0%に16.7%を示した。よく泣き、しかもなだめにくいも中核群に有意に多く、3歳未満29.2%に対し7.9%、3歳以上26.7%に対し9.5%であった。

赤ちゃんのとき「とても手がかり、大変だった」ことも3歳未満中核群31.3%、非中核群10.8%、3歳以上28.6%に対し11.8%である。

#### (5) 父親の関係

子どもについての話し合いのないものは、3歳未満中核群21.3%に非中核群7.8%、3歳以上36.1%に対し16.1%であり、夫と気持ちが通じ合っていないことも中核群に有意に多い（3歳未満中核群10.6%、非中核群1.6%、3歳以上10.1%、3.7%）。積極的に子どもの相手をした、家事に参加することは3歳以上群に有意差が認められる。

#### (6) 相談の関係

困ったとき相談でき、話し合える友人のいないものは3歳以上に有意であり、中核群14.2%に対し非中核群5.9%を示した。一方自分の母親に相談できないものは3歳未満群に有意であり、中核群35.4%に非中核群は10.7%であった。

#### IV 考 察

本プロジェクト研究において3歳未満児、3歳以上児の母親を対象に育児不安を明らかにすべく調査研究を進めてきた。本報告ではこれまで得られた知見を基に、育児不安の本態及びその心性を明らかにするために統計的分析を加えた。以下、研究方法を含め、得られた結果を考察し保健指導、育児相談など臨床に寄与したいと考える。

使用した基礎データは1994、1995年論文のものであり、調査項目の選定、調査標本、調査地域についての考察はこの2論文にある。

データの整理方法について、いわゆる育児不安との関連が想定される29項目の中から母親本人の心身状態に関する項目を除くことにより、育児に関わる不安を明確にしようと、母親の子どもに関わる10の項目を選び、因子分析を行った。この選定の問題は母親自身のことと子どもとのこととの明確な弁別が難しく、「育児に自信がない」などの項目を入れるべきか判断しがたい。いずれにしても、育児不安といわれている状態を明らかにし、臨床に使うよう、その評定尺度の作成が必要であり、今後統計処理を含め、整理法の検討を行いたい。

##### 1. 抽出された因子に関する考察

3歳未満群、3歳以上群共に同一4項目から成る第1因子のみが抽出され、それだけにこの因子のもつ意味は大きいものといえよう。項目をみると「子どものことで、どうしたらよいかわからない」「うまく育てていない」といった育児への困惑と、「子どもが煩わしく、イライラする」「子どもを虐待しているのではないか」といった子どもへのネガティブな心的態度、感情の二つの心性を示しているといえよう。さらに、両年齢群に共通した因子であることは、子どもの年齢に影響されることの少ない、乳幼児期を通じた特有な心的状態を示すものと考えられる。加えて、この4項目はほぼ同一の項目が3歳未満群では第2因子として、3歳以上群で第1因子として抽出され「育児困難感」と命名した因子を構成するものである。そして、先の論文において育児不安といわれてきたその本態はこの「育児困難感」である可能性を提起した。この文脈から考えると、ここに抽出された因子は先に得られた「育児困難感」の中核をなすものと考え「中核的育児困難感」因子と命名しうるものといえよう。更に本因子は育児への困惑と子どもへのネガティブな気持ちから成る心性を示すが故に、育児不安の本態であるこ

とが示唆され、今後臨床的検討を加えたい。

##### 2. 「中核的育児困難感」の構成因子と各項目に関する考察

育児不安項目について、両年齢群とも全ての項目に育児困難感の高低との有意な関連が認められ、本因子が母親の広範囲にわたる問題と関わりのあることを示している。それだけに育児困難感の高い母親への相談援助にはより専門的なスキル—特にカウンセリング的な—が要求されるものと考えられ、子どもに関わる専門家のこの領域での研鑽が求められる。

育児についての心配は、現在、過去ともに、育児困難感の高いものに多く、とくに2歳前後に顕著にみられ、かつこの時期に手助けを最も求めていることに留意したい。発達のこの時期は分離不安を生じやすいなど母子関係に敏感な時期であることも関連を有すると思われ<sup>3)</sup>、相談の際考慮すべき点である。

子どもの全体的な評価としての満足感を問うと、育児困難感の高いものが満足と評価していない。全体的な印象評価は漠然としているだけに子どものあらゆる側面を感じ取ってのことであり、子どもへの信頼感や肯定感との関連をもち、子どもの心の健康への影響が考えられる。

子どもの心身にわたる状態との関連について考察すると次のようである。「泣き虫」、「しつこい」、「落ち着きがない」といったことは、育児困難感と関連がある。これらが育児困難感をもたらすのか、育児を困難とする母親によりもたらされるのかはここでは不明であり、どちらをも考えに入れておく方が臨床的であろう。「指しゃぶり」、「タオルを離さない」などの癖についての心配、「疳が強い」、「こだわりが強い」などの情緒的問題についての心配も育児困難感の高い母親に有意である。特に3歳以上群では「驚きやすい」を除き全ての項目に有意に多い。発達のこの時期から危機信号としての情緒的問題が現れやすいことも関連があろう。幼児期の母と子への健診を中心とした相談援助の重要性を示している。身体への心配について、年齢に共通しているものは「発熱」「風邪」「体重が増えない」であるが、特に体重は小児肥満が問題になっているときだけに、育児困難感をもつ母親の意識に注意を払うべきであろう。発達、特に言葉の心配も育児困難感の高いものに有意である。通常でも言葉の発達について母親は敏感であり、相談の際気を配りたい。

ここで注目すべきことは、きょうだいに対しても心配や悩みをもっていることであり、育児困難感をもつ母親は子どもの状態に関わりなく心配しやすい傾向にあるこ

とが考えられる。

妊娠、出産について、育児困難感の高い母親は妊娠に気づいたとき、嬉しいが低く、不安が有意に高い。妊娠を望んだか、まだ望んでいないかについて育児困難感に関連をもたない。ここで選択肢に望まない妊娠の問題を取り上げるべきであろう。出産後の涙もろさ、淋しさも有意差があり、マタニティブルーズも看過できない問題であり、この時期の心のケアにあたりたい。乳児の特徴として、「あまり眠らない」「よく泣き、なだめにくい」「飲みが悪い」等いわば Difficult baby であることが育児困難感と有意な関連をもっている。これも卵が先か、鶏が先かのようなものであるが、その子どもの特徴であること、時期を待つこと、対処の仕方などよく説明する形で相談にのりたい。このことと関連をもつ「とても手がかり、大変だった」ことは子どもへのネガティブな気持ちを引き出しやすいので、相談援助が必要である。

「子どものことでの話し合いがない」「気持ちが通じ合っていない」など夫婦間の問題も育児困難感の高い母親に有意である。母と子の問題に父親、夫との問題が関与していることが多く、相談は父、母、子の3つの関係を視野に入れてなされる必要がある。

困ったときの相談相手について、育児困難感の高いものは相談できる友人が有意に少ない。特に注意すべきは3歳未満児の母親では自分の母親に相談できないものが有意に多いことであり、母親自身の母子関係も効いている可能性がある。いずれにしても育児困難感の高い母親は人に相談しにくいということを心得て、ほんの些細なことでも相談し易いよう健診の場などでの受け入れの体制を作りたい。

### 3. 中核的育児困難感群の考察

以上の考察に屋上屋を重ねることになるが、本研究で得られた「中核的育児困難感」因子を構成する4項目全てに該当する母親は相談援助をまさに必要としていると考えられ、そのポイントを見いだすことは臨床上有用であろう。

本群の母親は今、現在に心配、不安をもっていることに留意したい。先述のように、どうしたら相談してくれるかが子どもに関わる専門家の大きな課題である。

年齢を問わず子どもに満足していないのであるが、特に3歳以上児では、満足とする比率が4.4%に対し非中核群では39.3%もある。この子どもへの評価には母子関係そのものが関与している可能性があり、母と子の相談が必要と考える。

発達についての心配も際だっている。3歳未満児では

24.5%、3歳以上児は20.7%の母親が心配とし、一方非中核群ではいずれも4.5%に過ぎない。本当に発達に問題があるのか、子どもの発達をよくみて母親の相談にのりたい。

きょうだいについての心配、悩みも中核群では3歳未満児39.4%、3歳以上児38.8%に非中核群11.1%と9.9%であり、中核的育児困難感の場合、きょうだいにも目を向けて相談を行う必要がある。

乳児の状態のうち、「よく泣き、なだめにくい」、「とても手がかり、大変だった」の比率が顕著に高い。「中核的育児困難感」因子の考察に述べたように、子どもへのネガティブな心的態度、感情が関与しており、この乳児の状態も育児困難感を引き出す可能性をもつので、乳児期の相談も健診において重要である。

夫との話し合い、気持ちの通じ合いのなさの比率も中核群に極端に低い。従って相談の際、父親を視野に入れ、父親のこを取り上げ、或いは父親にも相談にきてもらうことも、そして場合によっては夫婦関係の相談も考える必要がある。

相談し話し合える友人がいない人が多いこと、自分の母親にも相談できないとする比率が高い。心の健康の危うい人は、自分も人も信頼することが難しいとみてよい。信頼できないので相談しにくいことになる。相談に来てくれるような場をつくること、相談の受け方、すすめ方に大きな課題があると考えられる。

以上、乳幼児をもつ母親を対象に、育児不安の本態とその心性を明らかにし、その的確な臨床的対応を得ることを目的に本研究を行った。その結果、従来、育児不安といわれてきたその本態は「育児困難感」という心的状態であること、更に、中核的といえる育児困難感とその心性を示した。この心性は育児への困惑と子どもへのネガティブな心的態度、感情でありこれらは母親をめぐる多くの要因と関連をもち、その臨床的対応への手掛かりを述べた。今後、育児困難感の評定尺度とその臨床的適用へと研究をすすめたい。

### 文 献

- 1) 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する基礎的研究。日本総合愛育研究所紀要、30集、27-39、1994
- 2) 川井 尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する臨床的研究、一幼児の母親を対象に。日本総合愛育研究所紀要、31集、27-42、1995
- 3) ポウルビー(二木武監訳)母と子のアタッチメント 心の安全基地。医歯薬出版、1993

付表 育児不安に関する調査票（3歳以上児の母親用）

## アンケートのお願い

愛育相談所では、子どもが心身ともに健やかに育つよう、そのときどきに出会う課題や問題についての相談、援助の仕事をしています。そして、一番大切なことは、子どもたちが自分の力で成長、発達していけるよう援助することだと思います。それには、まず第一に、子どものその力を妨げないようにするにはどうすればよいのかを知ることが必要です。

このアンケートは、そのための手がかりを得るためのものです。

なお、記入は無記名で、しかも得られた結果は全体として集計・分析しますので、個人的な資料がおおやけになることは決してありません。どうかご協力ください。

恩賜財団母子愛育会・愛育相談所長

川 井 尚

《回答のしかた》 以下の質問項目では、原則として、答えの中で、あなたのお考えに一番近いものを1つ選んで、番号に丸（○）をつけてください。

なお、《いくつでも○可》となっている項目では、あてはまるものに、いくつ丸（○）をつけてもけっこうです。

《調査の対象》 調査の対象となるお子さんは、3歳前後から6歳すぎくらいまでのお子さんです。そのお子さんについてお答えください。

### I 育児についての印象

- |  |       |        |
|--|-------|--------|
| 1. 何となく育児に自信がもてないように思う                   | 1. はい | 2. いいえ |
| 2. 育児についていろいろ心配なことがある                    | 1. はい | 2. いいえ |
| 3. 子どもといっしょにいと楽しい                        | 1. はい | 2. いいえ |
| 4. 子どものことがわらずわしくてイライラする                  | 1. はい | 2. いいえ |
| 5. 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある          | 1. はい | 2. いいえ |
| 6. 子どもをうまく育てていると思う                       | 1. はい | 2. いいえ |
| 7. 私一人で子どもを育てているのだと思う                    | 1. はい | 2. いいえ |
| 8. 子どもを育てるため、がまんばかりしていると思う               | 1. はい | 2. いいえ |
| 9. 子どもを育てることが負担に感じられる                    | 1. はい | 2. いいえ |
| 10. 自分のやりたいことができなくてあせる                   | 1. はい | 2. いいえ |
| 11. 母親として不資格と感ずる                         | 1. はい | 2. いいえ |
| 12. 育児ノイローゼに共感できる                        | 1. はい | 2. いいえ |
| 13. 私の生きがいは育児とは別である                      | 1. はい | 2. いいえ |
| 14. 叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと<br>思うことがある | 1. はい | 2. いいえ |
| 15. とくに理由はないが、子どものことがとても気になる             | 1. はい | 2. いいえ |

- |                                 |       |        |
|---------------------------------|-------|--------|
| 16. 何かというと子どもに目がいてしまい、気疲れする     | 1. はい | 2. いいえ |
| 17. とても幸せな気分ですごしている             | 1. はい | 2. いいえ |
| 18. 何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがよくある   | 1. はい | 2. いいえ |
| 19. 気が滅入ることがよくある                | 1. はい | 2. いいえ |
| 20. 楽天的であまりくよくよと考えない方である        | 1. はい | 2. いいえ |
| 21. 何事にも敏感に感じすぎてしまう方である         | 1. はい | 2. いいえ |
| 22. とても心配性で、あれこれ気に病むことが多い       | 1. はい | 2. いいえ |
| 23. 人とつきあうよりも、一人で何かしている方が好きである  | 1. はい | 2. いいえ |
| 24. 人づき合いが好きな方である               | 1. はい | 2. いいえ |
| 25. 不安や恐怖感におそわれることがよくある         | 1. はい | 2. いいえ |
| 26. いてもたってもいられないほど落ちつかないことがよくある | 1. はい | 2. いいえ |
| 27. イライラすることが多い                 | 1. はい | 2. いいえ |
| 28. ひどく疲れやすい                    | 1. はい | 2. いいえ |
| 29. からだの調子は？                    | 1. 快調 | 2. 不調  |

## Ⅱ 育児について

### 1. 今まで育児について一番心配だったのはいつ頃ですか

- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 不安、心配を感じたことはない     | 2. 現在心配である（ 歳 カ月）             |
| 3. 以前心配だった→それはいつ頃でしたか | ア. 妊娠中    イ. 出産入院中    ウ. 退院直後 |
| エ. 退院から1カ月まで          | オ. 1カ月すぎ～3カ月まで                |
| カ. 4カ月～6カ月まで          | キ. 7～11カ月    ク. 1歳前後          |
| ケ. 1歳半前後              | コ. 2歳前後    サ. 3歳前後            |
| シ. 4歳前後               | ス. 5歳前後    セ. 6歳前後            |

### 2. 一番育児の手助けがほしかったのはいつ頃ですか

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 1. 手助けをほしいと思ったことはない | 2. 現在（ 歳 カ月）                  |
| 3. 以前 → それはいつ頃でしたか  | ア. 妊娠中    イ. 出産入院中    ウ. 退院直後 |
| エ. 退院から1カ月まで        | オ. 1カ月すぎ～3カ月まで                |
| カ. 4ヶ月～6カ月まで        | キ. 7～11カ月    ク. 1歳前後          |
| ケ. 1歳半前後            | コ. 2歳前後    サ. 3歳前後            |
| シ. 4歳前後             | ス. 5歳前後    セ. 6歳前後            |

## Ⅲ 現在のお子さんのようす

### 1. お子さんの全体的な状態を評価するとすれば、いかがですか？

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 満足している   | 2. まあまあ満足している |
| 3. やや不満足である | 4. 不満足である     |



2. 妊娠に気づいたとき、どのように感じられましたか
    1. とてもうれしかった
    2. うれしいけど不安だった
    3. とても不安だった
  3. 出産後、とても涙もろくなったり、さびしくなったりしたことがありますか
    1. いいえ
    2. はい
  4. あなたは、はじめてのお子さんを産むまでに、赤ちゃんとのようなかわりをもった経験がありましたか《いくつでも○可》
    1. 抱いたことがあった
    2. あやしたり、遊んだことがあった
    3. ミルクをあげたり、離乳食を食べさせたことがあった
    4. オムツをかえたことがあった
    5. 赤ちゃんの世話や相手をしたことはなかった
  5. あなたは次の子をほしいと思っていますか
    1. はい
    2. まだほしくない
    3. もうほしくない
- B 赤ちゃんのとき（生まれて半年ぐらゐまで）、お子さんはどのような赤ちゃんでしたか
1. 眠りについて
    1. すごくよく眠った
    2. ふつうだった
    3. あまり眠らないほうだった
  2. 泣くことについて
    1. あまり泣かなかった
    2. ふつうだった
    3. よく泣いたが、なだめやすかった
    4. よく泣き、しかもなだめにくかった
  3. 母乳やミルクの飲み具合について
    1. よく飲んだ
    2. ふつうだった
    3. 飲みがよくなかった
  4. 赤ちゃんのときの印象は
    1. おとなしく、手がかからなかった
    2. ふつう
    3. とても手がかかり、大変だった
- C ご主人とのこと
1. ご主人とお子さんのことについて話し合う機会がありますか
    1. よくある
    2. あまりない
  2. ご主人とはまあまあ気持ちが通じ合っていると思いますか
    1. はい
    2. いいえ
    3. どちらともいえない
  3. ご主人は積極的にお子さんのお相手をされますか
    1. 積極的である
    2. まあまあ積極的である
    3. あまり積極的でない
    4. 消極的である
  4. ご主人は積極的に家事に参加していますか
    1. 積極的である
    2. まあまあ積極的である
    3. あまり積極的でない
    4. 消極的である
  5. このお子さんを産むことを決意したのはだれですか
    1. おもに私
    2. おもに主人
    3. その他（ ）

D ご近所のこと

1. あなたのお住まいの地域には小さな子どもがたくさんいますか
  1. 子どもが多いほう
  2. 子どもが少ないほう
2. あなたのお住まいは
  1. 一戸建
  2. マンション
  3. アパート
- 2-2 ① マンションかアパートにお住まいの方におきぎします  
\_\_\_\_\_階建の \_\_\_\_\_階です
- ② また隣や階下の人に子どものことで気を使いますか
  1. はい
  2. いいえ
3. 身近な人たちと、子どもを預け合ったりすることがありますか
  1. よくある
  2. たまにある
  3. ない
4. 困ったとき、相談できたり、話し合える友人がいますか
  1. いる
  2. いない
5. ご自分の母親に何でも話せたり、相談できますか
  1. できる
  2. できない
6. お子さんのことで、困ったり、心配なことがあるとき、相談できる人がいますか《いくつでも○可》
  1. 夫
  2. 両親
  3. 自分のきょうだい
  4. 親戚
  5. 友人・知人
  6. 保育園・幼稚園の先生
  7. 医師
  8. 保健所・保健センター・児童相談所
  9. 近所の人
  10. 心理カウンセラー
  11. いない
  12. その他 ( )
7. 子どもを育てる上で、どのようなシステムがあるとよいと思いますか 《いくつでも○可》
  1. 育児相談 (電話相談、面接など)
  2. 保健婦の家庭訪問
  3. 育児教室
  4. 母と子の遊びの教室
  5. その他 ( )
8. これまで育児についての電話相談をしたことがありますか
  1. ある
  2. ない
- 8-2 電話相談をしたことがある人だけお答えください  
これまでに何回くらい電話相談をしましたか \_\_\_\_\_回くらい
9. あなたは育児に関する情報源として、どのようなものを利用していますか 《いくつでも○可》
  1. 育児雑誌
  2. 育児書
  3. テレビ・ラジオ番組
  4. 自分の親やきょうだい
  5. 近所の人や友人
  6. 保健所・保健センター
  7. 医院・病院
  8. その他 ( )

10. どの育児情報が一番役に立ちますか 《いくつでも○可》

1. 育児雑誌
2. 育児書
3. テレビ・ラジオ番組
4. 自分の親やきょうだい
5. 近所の人や友人
6. 保健所・保健センター
7. 医院・病院
8. その他 ( )

11. お子さんにきょうだいがいる方に、おたずねします

今回のアンケートの対象となったお子さんのごきょうだいに、心配なことがありますか

1. いいえ
2. はい (具体的に )

【補足質問】

1. あなたの年齢 \_\_\_\_\_ 歳
2. ご主人の年齢 \_\_\_\_\_ 歳
3. お子さんの年齢 \_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ カ月 性別： 1. 男 2. 女  
お子さんは (    人 ) きょうだいの (    番目 ) である
4. 同居家族 自分 夫 子ども きょうだい (内訳 \_\_\_\_\_ )  
          自分の 母 父  
          夫の 母 父  
          その他 \_\_\_\_\_
5. お子さんの昼間のおもな養育者は  
          1. 母親 2. 保育所 3. 祖母 4. その他 (                    )
6. ご主人のお仕事： 1. ある 2. ない 3. その他 (                    )
7. あなたのお仕事： 1. フルタイム 2. パート 3. 自営 4. 主婦 5. 休職中
8. あなたの学歴： 1. 中学卒 2. 高校卒 3. 短大・専門学校卒  
                  4. 大学・大学院卒

ご協力ありがとうございました